

災害から 身を守る。

～自主防災のススメ

地震など大規模な災害が発生すると、市役所などの防災関係機関は全力で活動します。しかし、火災や建物の倒壊が同時に多数発生したり、道路が寸断されたりと、防災機関の活動が遅れる場合があります。「自分たちのまちは自分たちで守る」という心構えを持ち、一人一人が日ごろから災害に備え、地域の自主防災活動に参加することが大切です。

災害発生時に地域を守るには、個人で行動するより組織的に防災活動を行う体制を整えて行動の方が効果的。地域では、町内会などの自治組織が、自分たちのまちを自ら守るために**自主防災組織**を編成し、災害に備えています。

上田さんは、文京町内会と発寒北連合町内会の防犯防災部長を務め、地域の防災リーダー（※1）として活躍しています。発寒北連合町内会では、各单位町内会合同で毎年、防災訓練や救命講習などを実施しています。

「今年の防災訓練は、札幌市総合防災訓練に参加し、発災対応型訓練（※2）など、いつもと違う訓練を経験することができました」と話す上田さん。救命講習では、3年ほど前から、AED（自動体外式除細動器）の使い方の講習も取り入れました。最近では、講習への参加者が増え、若いお母さんなどの姿も見られるようになったことを頼もしく感じているそうです。「応急手当ての方法などは、時間がたつと忘れてしまう。ぜひ毎年継続して参加して欲しい」と言います（今年は11月4日（日）、はっさむ地区センターで実施予定）。

「うちの町内はみんな仲が良く、いざというとき心強く思います。高齢の方がどこにいるか知っているだけでも、救助などの際に差が出ます。これからは若い方にも防災に関心を持ってもらい、どんどん活動に参加して欲しいですね」と話していました。

※1 防災リーダー…自主防災活動の企画・実施など、地域の防災活動の中心的な役割を担う。区役所で「防災リーダー研修」などを実施している。
※2 発災対応型訓練…事前に訓練内容を知らされず災害を疑似体験し、自ら考え臨機応変に対応する訓練。「シナリオのない防災訓練」ともいわれる。

自主 防災組織



上田久男 発寒北連合町内会
防犯防災部長
文京町内会防犯防災部長

◀上田さんの自宅車庫に保管している市から助成された活動資機材。消火、救出、救護活動に必要な基本的な資機材がセットで入っています。自分たちでバケツやヘルメットなどを足し、重くて持ち運びが困難だったので、台車を自作するなどの工夫をしました。



車輪付ぞ！

※平成19年度札幌市総合防災訓練

中高層建物での火災を想定した訓練。



発災対応型訓練で避難中に火災発生！地域住民が消火訓練。



JR琴似駅でも住民が応急処置などの訓練に参加。

発寒東小学校の児童も参加。



高速道路が倒壊！車からの救出訓練。

※平成19年度札幌市総合防災訓練
8月31日、西区の札幌市消防学校、JR琴似駅前広場の2カ所で開催。防災関係機関や事業所、各種団体、地域住民の約70団体、約1,200人が参加した。